

第2回委員会での主な意見と対応方針(案)

【第2回委員会】

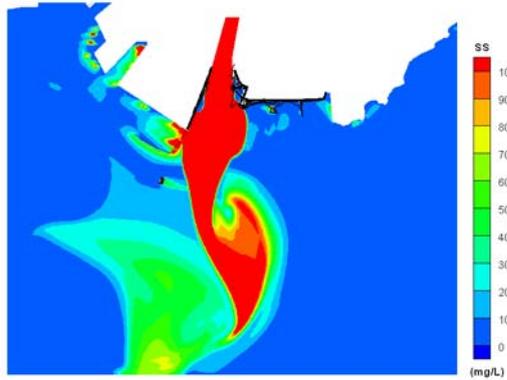
場 所: 赤穂市役所2階 204会議室

日 時: 平成24年12月25日(火)14:30~17:00

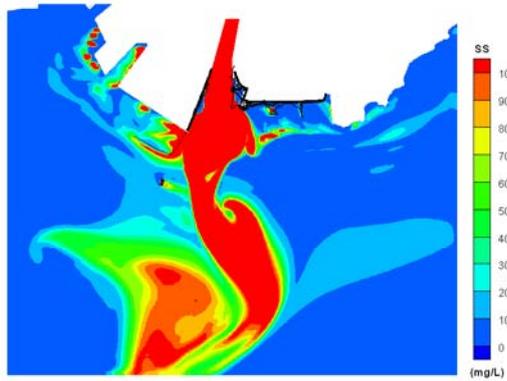
(1/2)

No	意見	対応方針(案)
1	(資料-2)ぬかるみが広がっている、あるいは状態として良くなった、悪くなった、ということと言えるか?	ぬかるみの広がりについて、継続して調査を行い、秋から冬のぬかるみ分布を整理した。(資料2)
2	(資料-2)ぬかるみの移動について、どのような機構(潮流や波浪によるそれぞれの寄与など)で動いているか?要するに、冬季風浪の影響もあると考えられるので、冬季調査を実施しないということであれば、冬季風浪によるぬかるみの移動の可能性についても整理できないか?	冬季のぬかるみの分布状況については、冬季調査を継続して実施し、秋から冬季のぬかるみの分布状況について整理した。(資料2)
3	(資料-2)秋の出水後、波浪によって岸側にぬかるみが移動するメカニズムを想定しているが、検証データはあるか?	検証データを取得するために、平成25年の春~夏にかけた出水時、高波浪時の追加調査を実施することとし、調査内容について整理した。(資料3)
4	(資料-2)出水と同時にぬかるみが広がってしまうことは無いか?あるいは、出水と波浪が同時に作用する場合にぬかるみが広がることは現象として考えられるのではないか?	出水と高波浪が同時に作用する場合について追加計算を行った。(資料2)
5	(資料-3)出水と波が同時作用する場合もあると考える。出水時に土砂が浮遊しているときに波が作用して流れ場が形成されて堆積域が決まってくるような気がする。	
6	(資料-2)5~6年前までは海岸の砂を沖側へ押し出していたので今のようなぬかるみ状態ではなかった。そもそも唐船海岸は泥が溜まりやすい場所である。今は砂を押し出していないし、唐船の地形に凹凸も無いので、泥が溜まると一面に堆積する。	過去の工事実績、空中写真から判読できる汀線付近の地形変化と併せて整理した。(資料2)
7	(資料-4)既存データを広角的に見直すに当たり、潮干狩り場では過去に砂をかぶせていたという工事記録もあるので、これらも含めて整理すること。	

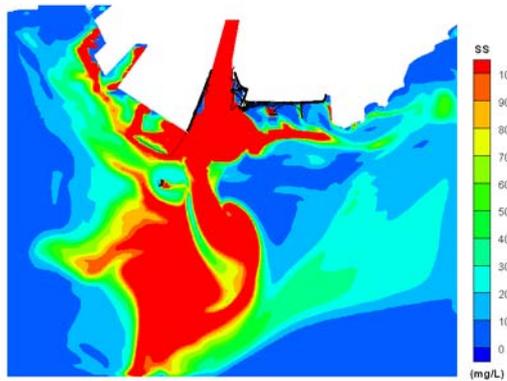
No	意見	対応方針(案)
8	(資料-3) 出水時の下層の SS 分布状況はどうか？	出水時の下層の SS 分布を示した。(別紙)
9	(資料-3) 高波浪作用後の計算結果はあまり岸側に堆積していないように見える。また、高波浪が来た時、細かい土砂は沖に出るのではないか？	高波浪作用後のシルト・粘土の堆積量を整理した。(資料 2)
10	(資料-3) ぬかるみは西から東にも移動しているか？	唐船山から T 突堤西側までの範囲で、平成 24 年 12 月～平成 25 年 3 月にかけてぬかるみの分布調査を行った。(資料-2) また、平成 25 年春以降の追加調査では、T 突堤東側から防砂堤までの区間も含めて、追加調査を行うこととし、調査内容について整理した。(資料 3)
11	(資料-3) 3 パターンの侵食堆積の分布図を足すと最終的な地形の変化になるのか？	今回は計算結果の重ね合わせに精度上疑問があるので行わないが、一連のイベント（出水、高波浪、小規模波浪）が発生したと仮定する場合は、重ね合わせた結果を地形変化として表示することは可能である。
12	(資料-4) 暫定対策において地形が変わると思う。地形の改変の程度にもよると思うが、撤去や覆砂する場合の流動の変化については予め把握しておく必要があると考えるので、計算による影響検討をしておくことが必要と考える。	潮干狩り場、海水浴場開場に向けての暫定対策の検討を実施した。(資料 3) また、これを踏まえた今後のスケジュール(案)について整理した。(資料 4)
13	(資料-4) 唐船山の西側が潮干狩り場であるが、組合としては来年の潮干狩り時期までに何とか対策をしてほしい。	



(a) 上層



(b) 中層



(c) 下層

2011/9/3 21:00

図 1 河川出水ケースの SS 濃度分布の例